

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471901734	事業の開始年月日	平成15年4月1日
		指定年月日	平成15年4月1日
法人名	社会福祉法人 宗得会		
事業所名	グループホームつばき		
所在地	(〒238-0311) 神奈川県横須賀市太田和2-10-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年2月10日	評価結果 市町村受理日	令和3年5月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の持っている能力を引き出し、心豊かにその人らしく過ごせる方法を考え、その生活を継続できるよう支援に努めている。
また今年度より、管理者の変更に伴い、これまで培ってきた事業方針にプラスして運営・環境・サービスの向上等に全職員にて取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年3月2日	評価機関 評価決定日	令和3年5月3日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】 この事業所は、JR横須賀線衣笠駅から徒歩7分ほどの衣笠十字路バス停、または京急三崎口駅からバスに乗車、太田和バス停下車、徒歩5分のところに立地している。周辺は所々に畑地が残る緑豊かな丘陵地が望める住宅地にある。隣接地には同一法人の特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどがある。法人全体で連携し、災害時の避難誘導体制を作成している。建物は軽量鉄筋造平屋建てで、広い中庭を挟んで2ユニットの事業所である。今年度より、新たな人事体制の中、新管理者が着任し業務に取り組んでいる。 【委員会活動】 委員会が設置されており、「感染症委員会」は新型コロナ対応マニュアル作成や予防などを担当、「衛生委員会」は危険個所の点検、健康診断、ストレスチェックなど、「研修委員会」は年間研修計画を立て、毎月1回、身体拘束適正化や接遇、認知症ケア、プライバシー保護などの研修を行っている。 【利用者の健康管理】 往診医や看護師が週1回午前中に訪問し、利用者の健康管理に努めている。また、理学療法士が月2回、各ユニットに訪れリハビリ体操を指導している。利用者はラジオ体操を日課にしたり、散歩や職員と共に手引き歩行をして筋力の低下を予防している。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームつばき
ユニット名	ユニットつばき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より、新たな人事体制の中で、今までの事業方針を踏まえ、入居者・家族の支援へ、理念に沿った対応を心掛けている。	今年度から「利用者の持っている能力を引き出し 心豊かにその人らしく過ごせる方法を考え その生活を継続できるように支援することです」を理念とした。管理者は職員に理念を印刷して配布し浸透に努めている。食事の盛り付けなど利用者の出来る事をしてもらい、それが継続できるように支援している。	新たな理念は、まだ職員全体には浸透出来ていない状況があります。職員間で話し合いの機会を持ち、理念の共有化が期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響で地域との関わりは、ほぼ出来なかった。運営推進会議も書面や電話連絡で意見交換であった。	小田和町内会に加入しており、回覧板が回ってきている。管理者は電話で町内会長に着任の挨拶を行った。毎年参加している町内会盆踊りの行事は中止になった。習字や貼り絵のボランティアや中学生の職場体験の受け入れもやむを得ず中止した。新型コロナの収束後は、再開したい意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の影響で発信する機会や交流ができなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面・電話でのやり取りのみであったが、感染予防への対応に対して評価を頂けた。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。参加メンバーは家族、町内会長、民生委員（2名）、地域包括支援センター職員、横須賀市指導監査課職員である。現在は新型コロナ禍で書面開催となっている。参加メンバーに事業所の現況を報告し意見を聞いている。特に意見は寄せられていないが事業所の感染症対策に対して評価を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点がある際は、市町村の担当者に連絡してアドバイスを頂くなど、サービスの向上に努めている。	市指導監査課担当職員からは、加算等について助言を得ている。要介護認定の更新代行を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を通し、マニュアルの作成や研修を行い、理解を深めている。	身体拘束適正化マニュアルがあり、毎月、法人主催の身体拘束適正化委員会に参加している。会議録は連絡ファイルに添付し、職員に周知させている。年2回、身体拘束・虐待に関する研修を実施している。現在、ユニットにより、ユニット入口、または玄関を施錠している。利用者が外出したい様子があれば、さりげなく声を掛けたり、一緒に中庭に出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を通し、マニュアルの作成や研修を行い、理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修委員会を通し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や変更時等がある際は、不明点を確認しながら説明に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・家族からの要望がある際は、可能な限り、実践できるように努めている。	家族会や敬老会は新型コロナ禍で家族の参加は中止された。家族の面会時などに利用者の様子を伝えたり、家族から意見を聞いている。緊急事態宣言が発令されている現在は、窓越しに面会を行っている。家族から「声が聞こえ難い」という意見があり、携帯電話を使用して話してもらうようにした。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍の影響で全体での職員会議等は困難であったが、現場であがった意見は反映できように努めている。	新型コロナ感染防止の為に職員会議の開催は困難で、業務中、書面、申し送り時など、その都度に職員に意見を聞いている。管理者自らも在籍年数が長い経験豊富な職員に意見を聞いてもらい業務に活かしている。研修、感染症など委員会活動や行事、誕生会などは職員が中心になって行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の導入により、職員個々の評価や職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は法人全体を通して、研修等を積極的に推し進め、職員のキャリアアップに協力的である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍の影響で交流は困難であったが、法人全体での会議や研修等を通してサービスの向上に努めた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問や関係者との情報交換を図り、信頼関係の構築と不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分な説明と共に不安や要望等を確認して、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を確認しながら、適切なアドバイスや支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活ペースを第一に考え、家事や活動を一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の影響で困難の時もあるが、生活状況を適宜伝えると共に必要時のサポートを依頼している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響で困難であった。	今年度は緊急事態宣言もあり、面会が制限されたが、玄関ロビーで15分程、面会できたケースがある。近くの美容室を利用している方の送迎をしている。以前、三味線をしていた方には、皆の前で三味線を披露してもらったり、書道をしていた方には習字を書いてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を適宜見極め、孤立しないような生活環境作りや支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約後も必要時は相談や支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向の把握に努め、困難時は本人本位又は家族の意向を確認している。	日常の関わりの中で意向を把握している。意向の把握が難しい方は家族から聞いたり表情を見て汲み取っている。「歌が好きだった」と家族から聞き取り、居室でCDを流し聞いてもらっている方もいる。職員は情報を「支援記録」に記録し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問時や入居後の情報収集に努め、全職員が共通の認識が持てるように書面にて把握へ努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後の情報収集に努め、全職員が共通の認識が持てるように書面にて把握へ努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一斉に集まっての話し合いは困難であったが、管理者を中心に要望・課題・支援等について検討し、介護計画と日々のモニタリングに努めている。	利用者、家族、職員、医師、理学療法士の意見が含まれた介護計画を作成している。計画の見直しは、入居時は1か月位、その後、短期は6か月、長期は1年で、状態の変化があった場合はそのつど行っている。毎日、実施モニタリング表に介護目標に沿ってケアができたかを記録して介護計画の見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録や職員間での意見交換を通して、介護計画の見直しや支援に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の影響で困難であった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実践することが出来なかった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が望む対応へ努め、往診医の紹介や受診のサポートに努めている。	入居前からの主治医を利用している利用者は2名、その他、精神科や皮膚科などを利用している方もいる。協力医以外は家族の対応で、受診している。受診結果は支援記録などに記録し情報を共有している。協力医・歯科医は週1回、理学療法士は月2回訪問があり、看護師は週1回勤務している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の勤務時に体調変化等の報告・相談し、適切な処置や受診等が早期に対応出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の相談窓口とこまめに連絡を取り、状態把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応の指針説明や同意、終末期における意向を確認を適宜行っている。	入居時、「看取りに関する指針」を家族に説明して同意を得ている。意向について、年1回は家族に変更はないか確認し、状態に変化があった時にも確認している。終末期を迎えた際は「看取り介護の同意書」を取り交わし、家族、医師、職員で話し合い方針を決めている。今年度は2名の方の看取り実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	3月に緊急時等の研修を開催予定。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練実施や機器の説明を行っているが地域との協力体制は築けていない。	令和2年10月に、利用者も参加し避難訓練を実施した。令和3年3月には夜間想定訓練を行う予定である。法人が詳細に作成した防災マニュアルがあり、災害時には同法人の特別養護老人ホームからの応援体制がある。非常食3日分以上、食器類、カセットコンロなどの災害用品を、災害備蓄品リストで管理している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の人格や生活歴等を把握し、接遇や対応を心掛けている。	職員は、接遇研修の受講や「気配りを心掛けましょう」、「職員同士のなれ合いを注意しましょう」などの月間目標を決め、留意する事で、利用者の気持ちを大事にするケアを実践している。申し送り時は情報が漏れないように配慮して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	都度、説明や確認をしながら支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の生活ペースを大切にしたい支援を心掛け、本人の希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みに合わせた衣類の購入や整容の支援に努め、定期的な主張ヘアカットサービスも行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々の好みに応じた食事提供は行っていないが、季節に合わせた行事食の提供は行っている。準備や片付けは出来る範囲で行っている。	食事は主菜と副菜は専門業者より冷凍で配送されたものを利用し、職員はご飯と汁物を作っている。利用者と米研ぎや盛り付けを共にしている。正月や敬老会などは、特別メニューを外部に注文し、クリスマスには職員が利用者 に心を込めて準備した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスが取れた食事を提供しており、状況に応じては補食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後に口腔ケアを行っており、入居者個々の状態に応じて介助を行っている。また必要者には歯科往診も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	支援を必要とする入居者に対しては、立位や尿意がある場合、トイレでの排泄に努めている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、利用者から訴えがあった時や時間を見て誘導している。昼間は2人体制で支援するなど、なるべくトイレで排泄できるようにしている。夜間はトイレ誘導したり、パットやオムツ、ポータブルトイレを使用する方がおられ、個別に対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて乳製品の提供や定期的な室内運動に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者個々の状態に応じた入浴支援に努めており、入浴希望を確認しながら対応している。	入浴は1人の利用者につき週2回で、時間は午前中が多い。現在入浴を好まない方はいない。浴室にはリフトの設置があり下肢筋力の弱い方も浴槽に入ることが出来るようになっている。浴室、脱衣所をエアコンで温めヒートショック対策をしている。利用者は、季節のゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の希望や状態に応じた支援に努めている。また換気や温度・湿度調整等も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の服薬目的・用法・用量を把握し服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々に合わせた活動の支援や提供を行っている。また季節に合わせた行事を開催している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響で困難であったが、中庭や玄関先で過ごす時間を設けた。	本年はコロナ禍の影響で桜花見、ミカン狩り、ソレイユの丘散策など外出行事が中止となった。利用者は中庭で散歩をしたり、天気の良い日はおやつや飲み物を摂りながら外気浴をするなどしている。その他、駐車場に出たり、毎日のラジオ体操、月2回の理学療法士によるリハビリ体操、廊下で手引き歩行などをして筋力低下を予防している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個々での金銭管理は行っていないが、希望時は家族や職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をしたり、手紙を書いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快・混乱をまねくものではなく、季節に合わせた飾り物を装飾している。	食堂・談話室は中庭に面していて明るい。大型テレビ、ソファなどがあり、換気に配慮し、加湿器、エアコンの設置で快適に過ごせるようになっている。壁には干支の飾りやお雛様を飾り、季節が感じられる。廊下には1人用ソファが設置され、またロビーには寛げるスペースがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファを設置している。また入居者同士の関係性に合わせた座席に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を置かれたり等、好みの物や配置になっている。	居室の入り口には表札がかけられている。カーテン、障子、エアコン、換気扇、照明器具、クローゼットなどの備え付けがある。利用者は仏壇、テレビ、テーブル、椅子、机、三味線、家族の写真などを持ち込んでいる。カーテンを引かないで障子越しのあかりを楽しむなど自由に部屋作りをしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や各場所に表札を設置している。また定期的な安全チェックを実施しており、環境整備を心掛けている。		

事業所名	グループホームつばき
ユニット名	ユニットさざんか

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より新たな管理者の指揮のもと今までの事業方針のもとに入居者ご家族への支援を継続すると同時にサービスの質の向上のため、新たな事業理念の実践をおこなう。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナウィルスの影響もあり、地域との関わりがほぼ、なかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響にて地域への貢献及び繋がりがもてなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は書面及び電話にて実施し、感染予防への対応に評価をいただいた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃よりサービスの向上のため、市町村の担当者に疑問や意見を求め理解していった。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に研修をおこない、身体拘束に対する理解を深めていった。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心にマニュアルの作成や研修に取り組み、理解を深めていった。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修委員会を通じて理解を深めていった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明のみでなく、ご家族からの疑問点は改めて説明をおこない、理解していただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、ご家族より希望、要望がある際は出来る限り実践できるように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナの影響にて会議の実施が困難であったが、日頃より職員の意見を汲み取り、共に実践に向けて取り組むように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の導入により職員個々の評価及び職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は様々な研修に参加する機会を設け、身に着けたスキルを職員へ指導していく取り組みをおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナの影響にて同業者との交流は困難であった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に現在の生活環境での困りごとや不安、要望を引き出せるように努め、施設内での生活に不安がないように情報として職員へ報告している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の生活における困りごとや不安を聴き、施設内での生活に対する要望を聞き出し、可能な限り実践できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族での困りごとを確認し施設での生活に変わった際に何が本人に必要なか、安心した生活が行えるように考え、実践している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設生活であっても本人の生活スタイルを一番に考え、その方にあった過ごし方ができるように支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響にて直接的な関わりは困難であったが、写真や手紙などを通じて確認できるように努めた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響にて様々な方との交流や場所へ行くことは困難であった。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方にあった関係が築けるように見極め、孤立感を感じないように、適宜関わりを持てる時間を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要な場合は同法人内でも協力できる事柄は対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その方の意向を把握するため、入居するまでの経緯、生活を理解している。また、ご家族からも意向は同様に確認している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問時等にご家族または本人より情報を聞き取り、全職員が把握し共有することでその方にあった関わり方や生活環境の提供に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活ペースを記録し、共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心にその方に何が必要なのか、職員より聞き取り反映できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方に介護計画が適しているか、ケア記録を通じて情報を収集し、見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響にて困難であった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実践することが困難であった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の訴えや家族の思いを含めて主治医へ報告・相談し適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出勤時には体調の変化等を報告、相談し、早期に対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先との連絡交換よりその方の状態及び退院後の対応について助言をいただけるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的な体重測定や食事摂取量、日頃の様子記録より栄養状態や活気の有無を確認し、主治医へ早急に相談すると同時にご家族へ報告し、今後の状態変化を予測し細目に連絡をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	3月に緊急時等の研修を開催予定。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の研修にて定期的に避難訓練を実施。同法人内でも連携をとり災害時の対応に備えている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録などの書類は全てファイルに綴じ管理しており、一人ひとりの人格を尊重し関わっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より何をするのか、したいのか、本人の意思を確認し希望に添えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は絶対ではなく、その日の入居者の気分や体調により時間を変更したり対応している。また、日頃より食後どのように過ごすか（レクか休息など）入居者の意思を確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や写真を撮るさいなどは着替えをしたりしている。毎朝の起床時には自室の鏡の前でヘアブラシを持って整えたり、化粧水を塗ったりできるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方が好きな物を通常の食事とは別につけることもある。食後の片付けを一緒に行っている。行事の際は外部より食事を注文したり、普段とは違った食事を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みや、嚥む力に応じて食事の形態を変更している。水分はコップを大きい物に変更したり、お茶だけでなくコーヒーなどその方の好みにより提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床、毎食後の1日4回の口腔ケアを実施しており、その方の体調や口腔内の状態に合った口腔ケア物品（ティッシュやスポンジ）を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排尿量や排泄回数に応じて使用するパッドやオムツを決めている。また、時間に応じてパッドや紙パンツの使用を調整している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝起床後の水分補給を実施し、毎日ラジオ体操を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴はその日の入居者の気分により中止をしたり、時間を変更したり対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日居室内の空気の入れ替えやエアコンや加湿器を使用し過ごしやすい空間を提供できるように支援している。冬季は寝具が温まるように湯たんぽを使用するなど寝入りやすい状況に整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が入居者の服薬数及び効果、副作用について理解した上で服用を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や片付けなどの家事を入居者同士で分担し実施し、役割をもっていただけるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響もあり残念ながら外部へ行くことは難しい状況である。出来る限り施設内であっても中庭などでの行事を企画し参加して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理が可能な方がいない為、施設にて管理している。何か欲しもの食べたい物がある際はご家族に確認し購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月ご家族に最近の様子を書ける方は自身で自由に書いていただいている。ご家族や知人から電話があった際は、様子を伝えるだけでなく、本人と会話し声を聴いて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビング、居室などから見える植物や空気、日当たりなど、どこにいても感じる事ができる空間であり、窓も大きく外の様子から季節を感じやすい場所となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間であっても、過ごし方は様々であり、制作物や読書、TVなど入居者の希望に沿った対応をしている。また、独りになりたい際や外の空気に触れたい際は中庭や玄関先のソファで過ごされることもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内へはご家族の写真や過去に作成した物などの思い出のある物や衣類、家具を入居時にご家族へ説明し依頼をしているため、居室により様々である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	業務上必要な物品などであっても、歩行や車椅子の妨げとならないように、日頃より整理している。また、トイレや居室に入居者が見てわかりやすい表札を設置している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームつばき

作成日 令和3年5月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	今年度の運営理念・方針等が全職員に浸透できていない状態である。	全職員が運営理念・方針等を共有して実践に繋げていく。	全職員で共有し実践できるよう、来年度は職員間で検討していき、運営理念・方針等を作り上げていく。	令和3年5月1日～令和4年3月31日（11ヶ月）
2	18	昨年度はコロナ禍により、外出等の機会がなく、閉ざされた生活環境であった。	定期的な外出ができる。	コロナワクチン接種後、ソーシャルディスタンスを守りながら、外出機会を増やしていく。	令和3年7月1日～令和4年3月31日（9ヶ月）
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。